

## 南風原（へーばる）

勝連の語原はカキ・レ?

勝連半島の根っこに今世界遺産として注目を集めている勝連城跡が聳えている。勝連半島の地名はこの城の名に因むものであろう。

標高約百級の城の頂上からは中頭一帯は言うまでもなく、国頭、島尻方面を見渡すことができる。特に中城湾を挟んで中城城跡、その向こうに首里城方面が手に取るように見える。戦国武将なら阿麻利和利ならずともここに立てば天下覇権を志すのは当然の成り行きといえる。かつて平敷屋朝敏は数百年も前にこの城を訪れ、古の栄華と強者どもの夢の跡を偲んでいる。

勝連城の歴史的背景や城跡の文化遺産としての価値はさておき、ここでは題名に沿って「勝連」の地名の語原と意味について考えてみたい。

勝連のカツの語原はその地形や位置から「垣」でカキ↓カツ↓カチと転訛してきた。垣花のカキ（方音カチヌハナ）、嘉津宇岳のカツなど同様の語原で岩地・崖地を意味する。レは場所を示す接尾語でカツ・レがカツレン（方音カツレン）になり賀通連、・・・やがて勝連と表記された。

勝連城は中城湾沿いに東方に延びる勝連半島の石灰岩丘陵、その根っこの崖地、自然の要害の地を活用した城である。即ち、勝連の地名は「崖

地の（連なる）ところ」という意味ではないだろうか。

### 南風原の移動と発展

南風原は、勝連城の西方に位置し、中城湾に面している。グスクの周辺の地名は一般的にグスクを中心として東西南北で示されることが多い。しかし現在の南風原は勝連城の西にあるのになぜ南を意味する南風原地名になっているか。

それには次のような歴史的背景がある。当初南風原は勝連城の南側傾斜地（元島原）にあつたが、一七二六年に現在地に移つたといわれる（勝連町南風原字誌）。このときの移動については沖繩の歴史でも知られている前浜三良（勝連パーマー）の功績が伝えられ、南風原発展の基礎を築いた恩人として祀られている。

南風原の地名は「グスクの南側にあつて南風の吹くところ」という意味だがグスクの北西の現在地に移つてもそのまま南風原という柔らかく温かい地名を受け継いだのである。

以後南風原は肥沃な土壌と住民の勤労で県内でも屈指の豪農を出すまでになった。終戦直後は多くの難民が収容され、人口が一人余りを数え、前原市南風原区が誕生した。近年は土地改良事業・中城湾港新港整備事業が推進され、特に湾岸に面する一帯の風景は変容しつつある。

### 七カジラー石（寒土風石）

南風原の西の方に「ナナカジラー石（別名寒土風石）」と呼ばれている岩がある。現在は工場や民家と密接しその形状をはっきり見ることはできないがかつては雨宿りもできたという。この岩は中城湾岸より数百メートル内側に位置している。ここに南風原村ができる数百年前までは一帯は海水で満ち、波が押し寄せていた。この間長期に亘って岩は波に洗われ、削られていくつもの痕跡が残された。その形状から岩は「ナナカジラー石」と呼んだ。ナナは七で何回も、カジラーはクジル（抉る）のこと、方言のクジルはハルカジーン、ワタクジーン、ミーミークージーなど同じ語原である。

この一個の岩からクジルという古語やまた南風原がここに移転する前の周囲の地形・状況を推測することができる。物言わぬ一個の岩が歴史の証人として語り、地名の大切さを教えてくれる。

### 勢理客（ジツチャク）の語原と意味

七カジラー石から北東の丘陵地一帯に勢理客（原名）と呼ばれる地域がある。県内には勢理客地名が浦添市、今帰仁村、伊平屋村等にある。知名町には勢利覚がある。方音「ジツチャク」「ジツチャフ」だが、知名町では「ジツキョ」と呼んでいる。

筆者が少年の頃、運動会シーズンには「ただ今の一着はジツチャク（十着・勢理客）でした」と、今でいうオジンギャグを聞かされたものである。ジツチャク地名は元々「せりかく（おもしろさうし）」だったのが漢字で勢理客・瀬利覚と表現され「せりかく↓ぜりかく↓ぜつかく↓じつきゃく↓じつちやく（ふ）」に転訛してきたと考えられる。

その地名の語原と意味について『沖繩地名考・宮城真治』は、シリサクのことで「後の谷の義であろう」としている。つまりシリは後方のことでサクは迫で谷間と解している。

また奄美のジツキョはジは地、キョは川で「地中を流れる川」としている『知名町地名考・先間政明』。

地名のシリ・セリには後方を意味するものと「迫（せ）りあがる」で周囲より高くなっている状況を指すものがある。チャクの語原はカクと考えられるから郭・角で場所を示す。その位置や地形からしてその意味は「村の後の方」とも解されるが、勢理客（原）の隣には「後原」があるので同じ意味になつてしまう。県内の勢理客地名は丘陵地のところが多い。南風原の勢理客も集落を北風から守るように丘陵地になつている。

それからすると「丘陵地のところ」という意味に考えられる。

その他南風原には浜崎のテラ、ノロ殿内の神屋、報恩社など由緒ある拝所や釜尻、助加屋、マチンチャー、タカルハなど興味ある地名がある。